

# バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

## Interview ①

大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻 助教

**岡野 憲司**



出身大学・卒業年度：神戸大学大学院自然科学研究科 2009年 博士後期課程修了  
博士論文タイトル：バイオマスからの高効率な乳酸生産を目的とした乳酸菌菌体触媒の開発

### 「現在の仕事について」

#### ◆担当職務

生体触媒を利用した物質生産に関する研究と研究指導

#### ◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容&そこでのやりがい

・2009年4月～2011年3月 日本水産（株）中央研究所

仕事内容：水産廃棄物からの有用物質生産

やりがい：プラントスケールでの試験は貴重な経験となりました。また半年もの新人研修で生産から販売までのメーカー機能を勉強できたことは大きな財産となっています。

・2011年4月～現在 大阪大学

仕事内容：微生物や酵素を用いた化学品生産。リン資源リサイクル技術の開発

やりがい：周りから見るとちっぽけなことでも、自分の仮説が証明できた時はなんとも言えない充実感を感じます。いずれはそういった発見が社会の役に立つものになることを期待してステップアップしていきたいです。

#### ◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

私自身まだその段階に至っておりませんが、研究者一人一人が経営者のようにどんなパートナーと共同して、どんな研究（あるいは事業）を展開していくかということ、自由度をもって選択できる点にあると思います。

#### ◆現在の就職を決めた理由

私は自分で経験したことからしかものを判断できない人間ですので、迷っているキャリアは両方経験しました。そのうえで自分の気持ちがいよいよ高ぶる仕事を選びました。

#### ◆将来設計（描けるキャリアパス）

優れた科学技術には、社会のさまざまな問題を同時に解決できる拡張性があります。私は人と環境が共生できる社会形成のための技術開発に興味がありますが、本分野

において広く活用できるような基盤技術を開発していきたいです。

#### ◆挑戦したいと思っていること

自分の研究成果が社会に還元されることが夢ですので、企業さんとの共同プロジェクトを立ち上げたいと思い、準備を進めているところです。

#### ◆社会人として一番感動したこと

あまり研究に熱心でなかった学生さんから卒業の直前に「最後の最後に研究の面白さがわかってきました」と言われた時です。学生さんの努力も大事ですが、研究に打ち込みたくなるような指導が大切であることを実感しました。

#### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

バイオとまったく異なる異分野の研究に挑戦した時です。無知を恥じずにさまざまな方々に教を乞うことで乗り切ることができ、結果的に知識の幅も広がりました。

#### ◆仕事のプロになるコツ

他人の仕事をよく観察し、感心した点をとにかく真似ることだと思います。仕事はオリジナルでなければなりません、仕事のスタイルは自分のプラスになることであれば、どんどん取り入れていくべきだと思います。

#### ◆博士力、どこで発揮していますか？

学生の身分なりに研究テーマの立案から成果発表までの流れを経験した点は大きな自信になっており、就職後もすぐに自主的に仕事に取り組めたと思っています。

### 「人生について」

#### ◆何のために働くのですか？

自分をわくわくした気持ちにさせるためです。研究は日々さまざまな発見があります。また研究を通して全国各地さまざまな人と知り合える点も魅力です。

### ◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

自分と家族の生活の安心のためが第一です。そのうえでたまに旅行なり食事なり、少しの贅沢ができれば満足です。

### ◆ワークライフバランスで工夫していること

気持ちを抜くタイミングを先に決めていきます。ここまでやれば飲みに行く、旅行に行くというポイントを決めておくとメリハリがつけやすくなります。

### ◆現在の夢

仕事の効率を高め趣味への時間を増やしたいです。

### ◆将来の展望

何か一つでも社会に役に立ったと胸を張って言えるような研究をしたいです。

## 「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること  
多趣味になるということは人生を豊かにするうえで非常

に重要だと思いますので、趣味に旅行、バイト、留学、スポーツ、時間が許す限り色々な経験をしてあげれば良かったと思います。ただだらりと無為に過ごした時間が沢山ありますので、何もしていない時間を作らないことが大事だと思います。

### ◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

私は国語・英語・社会などいわゆる文系科目が嫌いでしたが、これらを遠ざけるように学生時代を過ごしてきましたが、社会人になってその重要性を感じています。自分の仕事を発信するには文章力が必要ですし、国際的に活躍するには語学力がいます。また工学者は社会のニーズに対してアンテナを張る必要があります。専門性という言葉の傘に隠れず、自分の弱点に向き合うことが数年後の自分のプラスになると思います。

連絡先 E-mail: okano@bio.eng.osaka-u.ac.jp

## Interview ②

協和発酵バイオ株式会社 技術開発部

柳原 佳奈



出身大学・卒業年度：福井大学大学院工学研究科物質工学専攻 2008年度 博士課程修了 博士（工学）  
博士論文タイトル：絹タンパク質セリシンを利用した、動物細胞に対する汎用的な無血清培地の構築

## 「現在の仕事について」

### ◆担当職務

新製品の研究開発（細胞培養関連）

### ◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

大学卒業後は、京都大学再生医科学研究所でバイオマテリアルに関連して研究し、その後、アメリカのアーカンソー大学で、幹細胞の研究を行いました。その後は、医薬基盤研究所で多能性幹細胞の研究を本格的に行いました。

### ◆そこでのやりがい

日々の研究で、細胞の無限の可能性を発見すると同時に、新しい分野の知識習得や専門分野の先生と充実したディスカッションができました。今となっては人生の宝です。

### ◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

研究を行う施設・機器などが充実していること。そして、

上司を含むチームメイトが素晴らしく、研究体制が整っていること。また、労働制度が充実していること。

### ◆現在の就職を決めた理由

これまでのバックグラウンドを活かせる仕事だったこと。より実用化に近い研究ができたこと。そして、会社の雰囲気や社員の人柄が自分に合っていそうだと感じたこと。

### ◆将来設計（描けるキャリアパス）

一生、細胞に関わる仕事をしていたいと思っています。今後も多くの製品を生み出し、難病に苦しむ多くの人を助け、医療に貢献したいと思っています。

### ◆挑戦したいと思っていること

将来的に、医療分野の専門家や若手研究者を集めて、イノベーションを起こしたい。私は、その中で人と人をつなぐ役目を担いたい。

#### ◆社会人として一番感動したこと

自分がピンチの時に必ず助けてくれる人がいたこと。

#### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

努力しても結果が残せなかったこと。人生の修行と思って耐えました。

#### ◆仕事のプロになるコツ

継続だと思います。諦めないこと。逃げずに立ち向かうこと。

#### ◆博士力、どこで発揮していますか？

研究を組み立てる上で欠かせないものです。技術・知識だけでなく、文献検索，研究発表，研究の文書化に至るまで，すべてに役立っています。

### 「人生について」

#### ◆何のために働くのですか？

生きがいです。仕事を通じて，経験だけでなく，たくさんの人とふれあうことができ，人生が濃くなったと実感しています。

#### ◆ご自分にとって，お金を稼ぐ意味

自分が努力してきたことに対する対価だと思っています。生きていくために，また，モチベーションを高めるために，重要だと思います。

#### ◆ワークライフバランスで工夫していること

研究しているとそれだけに没頭しがちですが，スポーツしたり，岩盤浴にいったり，ストレスをためないように気をつけています。

#### ◆現在の夢

できるだけ早急に製品を生み出し，自分の研究を形として残すこと。現在携っている仕事を形にすること。

#### ◆将来の展望

医療関係者とともに，医療技術を飛躍的に促進できるような，革新的な製品を開発する。

### 「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること  
英語のコミュニケーション能力を高めておけば良かったと思う。あとは，自分の興味のあることで，経験の豊富な色々な人ともっと話す機会を持てば良かったと思う。

#### ◆その他なんでも，後輩に伝えたいこと

やりたいと思ったことは，何でもチャレンジしたほうがいいです。失敗しても長い目でみたら得るものが多いし，メンタルが強くなれます。後悔しないように頑張ってください。

---

連絡先 E-mail: kana.yanagihara@kyowa-kirin.co.jp